

『神様からのプレゼント』

'21/12/19(クリスマス礼拝)

聖書箇所:ヨハネの福音書 3 章 16 節(新約 p.177)

さて、皆さん…、改めまして、クリスマスおめでとうございます。今日はもう19日なので、もう、皆さんは、クリスマスプレゼントの用意をされているでしょうか?…ところで、皆さんは、一体どうして、クリスマスのこの時期…、お互いにプレゼントを贈り合うのか、ご存知でしょうか?

⇒実は、現代の日本の習慣は、もとをただせば、アメリカから伝わってきたもので…、そのアメリカには、イギリスの習慣が伝わっていったのだろう。しかし、そういうことの、そもそもの起源(=ルーツ)は、実は、聖書に書かれてありますように…、今から約2,000年前に、神様が、私たち人類に対して、素晴らしいプレゼントを用意してくださった!ということに由来しています。

命題: 神が、私たちのために用意してくださった「贈り物」とは?

そこで、クリスマス礼拝の今日は、神様が私たちのために用意してくださった、素晴らしい贈り物について、ご一緒に考える時を持ちたいと思います。クリスマス礼拝の今日、私が皆さんに、ご紹介したい聖書のみことばは、「聖書の中の聖書」とも言われる…、聖書の中で、最も有名なみことばの一つである、ヨハネ3:16のみことばです。…そこには、このように、教えられてあります。『神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。』って…。

I・ 救い主として与えられたイエス様! ⇨『ひとり子をお与えになった…』

今、読んだみことばには、神が、『そのひとり子をお与えになった…』ということが教えられてありました。『そのひとり子こそ、私たちの“救い主”として与えられたイエス様であります!』何と、天の神様は、2000年前も前に、私たちのために、“救い主”を与えてくださったのです!

●神が私たちのために与えてくださった、約束の救い主

新約聖書のルカ伝2章に記されてありますように…、イエス・キリストがお生まれになったその日、天から、神の使いが現われて…、『きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。』と、羊飼いたちに伝えました…。イエス様は、この日この時…、ただ偶然に、お生まれになったわけではありませんでした…。イエス様が生まれたのには、そこに、「大きな理由 & 崇高な目的」があったのです!…と言うのも、イエス様は、ただの人間では無かったからです!だって、一体、世界のどこに、生まれる何百年も前から、預言されて…、生まれてくる人間がいるでしょうか?…あの時、御使いが教えてくれていたように、イエス様は、『救い主』であり…、イエス様は、救い主としての働きを全うするために、この地上へ来てくださったのです!普段、私たちが口にしている、イエス・キリストという呼び名の…、「キリスト」とは、「油注がれた者=救い主」という意味なのです。

確かに、普通、どこの家庭であっても、お子さんが生まれると、その家族や親戚がお祝いします。それは、ある意味、そのお子さんが、その家庭に与えられた子どもさんであるからですね?しかし、イエス様の場合、その誕生をお祝いしたのは、その家族だけではありませんでした…。そこには、御使いが現われ…、その御使いに導かれた羊飼いたちと…、その後、約1年後には、遠い外国から博士たちがやって来て…、まだ1歳かそらの幼子であったイエス様に、礼拝と捧げ物を捧げるために、わざわざ、旅をして、やって来た!…ということが伝えられています。

でも、一体どうして、そんなことが起ったのでしょうか?…一体、イエス・キリストとは、どういった存在であったのでしょうか?⇒実は、そういうことのヒントが、ここヨハネ3:16で教えられてあります。それは、ここ16節の後半にある、『ひとりとして滅びることなく…』という部分です。実は、聖書のみことばは、私たち人間が、神の怒り(ローマ1:18)の故に、『滅びる』べき存在である!ということを教え…、警告してくれています。実は、そのため…、私やあなたには救い主が必要で…、そのために、神は、イエス・キリストを、この世へと遣わしてくださったのです!

●聖書が教える、真の神様とは?

そもそも、私たち人間は、すべてを御支配なさっておられる、唯一の神様によって造られました。いえ、私たち人間だけでなく…、実は、私たちが目にするすべての存在は、この御方によって造られたのです!そのため、すべての生き物たちには皆、何らかの共通性があり…、すべてものが見事なまでに調和して…、今も存在し続けているのです。

確かに、私も…、学校では、進化論という、「すべてのものが原始的な生き物から始まって、それが、やがて、複雑で高等な生き物へと進化していった…」というようなことを教わりました。しかし、よくよく、そのことを調べてみると、実は、進化論とは、ただの学説であって…、確実に証明された事実ではないのです。だから、今でも、「進化“論”」と呼ぶわけです。つまりは、まだまだ、推論にしか過ぎないのです!

でも、本当に、何もないところから、さらに高度な…、より優れたものが、自然発生的に、でき上がっていくものでしょうか?神様という存在なしで…、勝手に、この宇宙が出来上がって…、すべてのものが秩序を持って成り立っていく…なんていうことが、本当に起こり得るのでしょうか?

聖書はこう教えます…、「神であるわたしが、すべてのものを造り…、それらすべてを維持している…。わたしの他に神は居ない!」って…。皆さん、そのことについて、どのように考えられます?…私たちは、そういうことについて考えないといけないし、皆さんも、それなりの答えを出さないといけないです!

果たして、私たちの周りで、造り主の存在なしに…、また、何の理由もなく、存在しているものがあるでしょうか?皆さん、この世界が、本当に、造り主なる神様という存在なしに、出来上がったという風にお考えでしょうか?…例えば、私が今持っている、このスマホ…。このスマホは、誰かがデザインして、工場で組み立てられて、今、こうして便利に使っています。果たして、このスマホ以上に、優れた能力を持った私たちの体やこの自然界が、造り主無しに、自然発生的に出来上がるでしょうか?

残念ながら…、私たち人間は、真の神様の存在そのものを、この目で見ることはできません。しかし、神様が造ってくださったものによって、私たち人間は、神様の存在や神様の御性質が、ある程度は分かれています。それは、神様が、私たち人間のことを、そのように造ってくださったからなのです!

それと、神様は、私たちに明確なメッセージを残してくださいます。(聖書を持ち上げて…)それが、この聖書のみことばです。間違いなく、この聖書自身が、そのように教えてくれています。「これは、神からのお言葉である!すべてを造られた神が、このように教えておられる!」って…。だから、聖書という書物は、数ある書物の中でも、他に類を見ない特別な書物として、今も、多くの人たちに読まれていて…、大きな影響を与え続けているのです。そのことは、今も教会に来続けてくださっているクリスチヤンの皆さんが、立派な証拠です。だから、どうか、皆さんには、ぜひ、今日だけでなく…、来週も、来年以降も、教会に通い続けてくださることをお勧めいたします。

II・神様からの、最高の 愛 ! ⇨『世を愛された…』

また、真の神様は、皆さんを愛しておられます!しかも、それは、普通の愛ではなく、最高の

“愛”である！と聖書は教えてくれています…。だからこそ、私たちは、そのことを知らないでいてはいけないのです。

●ひとり子であられたイエス・キリスト＝イエス様は、神であられた！

ここヨハネ 3:16 を見ても、ただ単に、「神は、この世を愛された…」とは書かれておりません。ここには、その神様からの愛の大きさを伝えるべく、『…そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された！』と書かれてありますしょ？…皆さん、親がひとり子を大切に思う…、それ以上の愛の大きさって、想像できます？…聖書のみことばは、天の神様が、私たち人間に注いでくださった愛は、親がひとり子に注ぐような…、いえ！それ以上の愛だと言うのです！

でも、ここで、皆さんにはぜひ注意していただきたいことがあります。…確かに、教会では、イエス・キリストのことを、「子なる神」と呼ぶことがあります。そのことが日々、誤解を招いてしまっているのですが…、イエス様は、父なる神様の、所謂、「子ども」なのではありません。もしも、イエス様が、父なる神様の子どもであるなら…（=ある時に、造られたか、あるいは、生まれた存在であるなら…）、聖書は、決して、イエス様のことを神であると、教えるはずがありません。…と言うのも、聖書が教える神様とは、何者よりも先に存在しておられる…、唯一の造り主であられるからです！

イエス様も…、そして、当然、父なる神様も…、永遠の初めから存在している神様であるが故に、親も子もいません。どちらも、初めから存在している！と聖書は教えています。神様に、始まりなんてないのです！父なる神…、子なる神…という言い方は、お互いの存在の（主従？位置？）関係について、私たち人間に分かり易いよう説明されているだけなのです。

しかも、この聖書は、この父なる神も…、そして、子なるイエス様も…、私たち人間には考えられないような強い結び付きで繋がっていた！ということを教えてくれています（ヨハネ 14 章など）。だから、この聖書のみことばが教えてくれている眞の神様は、「三位一体の神」と言いまして…、父なる神と子なるイエス様、そして、聖霊なる神の3つで…、お一人の神であられる！ということを教えているのです。

●イエス様は、あなたのために十字架にかかってくださった！

しかし、今日のみことばは、そんな強い結び付きで繋がれた関係を絶ってまで…、イエス様が、この地上に送られて來た！ということを教えてくれています。それは、すなわち…、神様が、それほどまでに、ここにおられる…、私や皆さんとのことを愛してくださっている！ということを意味しています。

しかも、そのイエス様は、この地上に来てくださっただけではなく…、皆さんもご存知のように、十字架にかかってくださいました…。それは、私や、ここにおられる皆さんとの罪を、イエス様がその身に負って、本来、私や皆さんを受けなければならなかった罪の罰を、イエス様が身代わりに受けてくださったからでした。そのこともまた、神様の…、皆さんに対する愛の大きさを物語っています。

確かに、イエス様は十字架にかかりましたが…、それは、イエス様が何か罪を犯したから…、あるいは、何かの政治的な陰謀によって…、イエス様がそのことを意図することができず、無理矢理に、十字架へと追いやられた、…というのでは決してありません。イエス様は、自ら進んで、十字架にかかっていかれたのです！…と言いますのも、まず、イエス様ご自身が、そのことを教えてくださっています。ある時、イエス様は、弟子たちに、「本当の、良い羊飼い」について教えてくださいました。そこで、イエス様がおっしゃったのは、「良い羊飼いとは、羊のためになら、自分のいのちさえも捨てることができる…」ということでした。その時に、イエス様は、『わたしが自分からいのちを捨てるのです。』（ヨハネ 10:18）とおっしゃって…、イエス様が、自ら、死なれることを、前もって、予言しておられました…。

それだけではありません。ゲツセマネの園で、イエス様が捕えられた時、弟子の1人が、イエス様のことを捕えようとした兵隊に切りかかった時でも、イエス様は、その弟子の行動を止めて、「ご自分が十字架

にからなければならない…」という趣旨のことをおっしゃいました。（その他：マタイ 20:17-19; 26:30-35; 26:62-63）。そのように、イエス様は、私やあなたの罪のために…、その罪を贖うために…、自ら進んで、十字架にかかってくださったのです！それは、言い換えますと、神様の、皆さんへの愛が、それほどまでに大きかったから！なのです…。

III・裁きではなく、罪からの 救い ! ←『永遠のいのちを持つため…』

最後、3つ目。神様は、皆さんに対して、滅びではなくて…、罪の裁きからの“救い”を用意してくださいました。そのことが、ここのみことばでも教えられてあります。最後に、もう少しだけ、お時間をいただきまして、そのことを確認させてください。

●私たちが裁かれるべき理由とは？

ここ、ヨハネ 3:16 には、『…それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。』ということが書かれてあります。実は、「私たち人間の、もともとの運命は滅ぼされるべきものであった…」というのが、聖書の教えです。…と言いますのも、今まで見てきましたように、天の神様が、私たち人間のことを愛し…、私たちに必要なことを教えてきてくださっているにも関わらず…、私たち人間が皆、その神に逆らい続けてきたからです！

そのことを、聖書のみことばは、このように教えてくれています。ローマ書 1 章、『20 神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。21 というのは、彼らは、神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなつたからです。22 彼らは、自分では知者であるといながら、愚かな者となり、23 不滅の神の御栄えを、滅ぶべき人間や、鳥、獣、はうもののかたちに似た物と代えてしましました。24 それゆえ、神は、彼らをその心の欲望のままに汚れに引き渡され、そのために彼らは、互いにそのからだをはずかしめるようになりました。』（ローマ 1:20-24）

⇒このように、神は、私たち人間が、自分たちの造り主である神様のことを知ろうとしないばかりか…、与えられた恵みに感謝もせずに…、自分たちに都合の良い、偽りの神々を作つては…、自分の好き勝手に歩んでしまっている、と言うのです。それが、聖書の教える「罪」です。そのように、私たちが犯した罪には、必ず、それに相応しい報い…、罰が伴います。それこそ、この聖書が教える「永遠の裁き」なのです！

●罪の裁きからの「救い」

しかし、眞の神様は、皆さんへのプレゼントとして…、罪の裁きからの救いの道を用意してくださっています。それが、聖書の教える「救い」です…。神は、のために、イエス・キリストを、この世に遣わしてください…、私や皆さんのが犯した罪の身代わりとして、罪の罰を受け…、罪の清算をなしてくださったのです。

あとは、ただ…、私たちが、神様の差し出してくださっている、その救いを受け取るだけで良いのです。そのことを、神様は待っていてくださっています。…いかがでしょう？あなたは、この神様からの、最高のプレゼントである、「罪からの救い、裁きからの救い」を受け取っておられるでしょうか？

聖書の中に、このような言葉があります…、『私たちがこんなにすばらしい救いをないがしろにしたばあい、どうしてのがれることができましょう。この救いは最初主によって語られ、それを聞いた人たちが、確かなものとしてこれを私たちに示してくださったのです…』（ヘブル 2:3）って…。神は、私たちのことを愛して…、最高の犠牲を払つて…、その愛を全うして下さいました。

<励ましの言葉>

もしも、私たちが、この神様からの愛を拒むなら…、もう、そこに救いはありません。自分の犯した罪の…、本来、私たちが受けなければならない、正当な報いがあるだけです。どうか、今日、このイエス様をあなたの救い主として…、信じていただきたいと思います。私たちは、いつか必ず、この地上での人生を終えて…、裁き主でもある神様の前に立たされる日がやってきます。どうか、その前に、眞の神様を信じ、神様と共に歩む者となってください。

この後、私たちは、もう1曲、讃美歌を歌っていきます。毎年、言っていますように、この讃美歌 121は、厳密には、クリスマスソングではありません。しかし、この讃美歌ほど、イエス様の生涯を簡潔、また、明確に教え…、私たちにイエス様の素晴らしさを訴えてくれる讃美歌は、そう多くないと思います。次は、この讃美歌 121を讃美して、神様に感謝を捧げたいと思います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。